

令和4年7月吉日

“ID-Link活用推進に向けた試験運用”にご協力いただいた皆さまへ

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、この度は標記についてご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

函館市では、医療・介護関係者の連携を推進するため、函館市医師会を始めとした各専門職の職能団体の代表により全市的な規模で組織された『函館市医療・介護連携推進協議会』において、関係者の情報共有のあり方を協議するため、有識者による「情報共有ツール作業部会」を設置し、地域で統一された情報共有ツール「はこだて医療・介護連携サマリー」（以下、「サマリー」）を作成し、その普及に向けて取り組みを進めてまいりました。この取り組みは、近い将来、病院、在宅および施設間において、よりシームレスな情報共有を行うためICT化を目指しているもので、このたびの道南地域医療連携協議会（道南 Medlka）と協働してのID-Linkを活用した情報共有の有用性を検証するための試験運用の運びとなりました。

つきましては別紙「ID-Link活用に関するヒアリング項目」に沿って、活用にあたってのご意見をお伺いできれば幸いです。皆さまからいただいたご意見をもとに、医療・介護間でのID-Linkを活用した連携推進に向けた検証を行わせていただきたいと思います。

お手数をお掛けいたしますがご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

## 記

- <情報共有ツール名称> ID-Link  
はこだて医療・介護連携サマリー（以下サマリー）
- <試験運用期間> 令和4年3月1日～令和4年7月31日
- <試験運用実施機関> 市立函館病院，高橋病院，訪問看護 ST フレンズ
- <試験運用協力機関> 道南 Medlka に所属、もしくは今回の試験運用含め、今後の連携のため道南 Medlka に参入される医療・介護事業所
- <試験運用の内容> 上記、試験運用実施機関と協力機関の連携支援において、ID-Linkを活用した情報共有連携に了承いただいた利用者（患者）さんを対象に下記の内容で試験運用を実施
- ① 入退院支援の場面に、サマリーをID-Linkに掲載する双方向共有の検証 ⇒ 「市立函館病院」にて実施
  - ② ①を含めたチーム間連携の検証 ⇒ 「高橋病院」「訪問看護 ST フレンズ」にて実施
- ※ ①②の試験運用の中で、介護側が必要としている機能や情報、及び課題について確認していく。（ヒアリング調査）

[お問い合わせ先]

函館市医師会病院内 函館市医療・介護連携支援センター 担当：佐藤，近藤

Mail: ikr-center@hakodate-ishikai-hp.jp 電話：43-3939 FAX：43-1199

# ID-Link活用に関するヒアリング項目

## 「ID-Link」についてお聞きします

- 1、公開されている情報の中、どの情報が支援の中で活用できましたか  
(複数回答可)  
① 処方 ② 注射 ③ 検査結果 ④ 読影 ⑤ 文書 ⑥ プロGRESSノート  
⑦ バイタル ⑧ 画像 ⑨ 心電図
- 2、ノート機能の活用(サマリーの共有含む)にて、情報を受けた際、どの職種の情報を確認しましたか(複数回答可)  
① 医師 ② 訪問看護師 ③ ケアマネジャー ④ 施設関係者  
( )  
⑤ 介護サービス事業所( ) ⑥ 医療機関 ⑦ その他  
( )  
⑧ 確認していない
- 3、自身が発信する情報についてどの機能を活用しましたか(複数回答可)  
① ノート機能 ② サマリーのアップロード ③ その他( ) ④ 確認していない
- 4、ID-Linkの便利なところ、連携がスムーズになったことについてお聞かせください
- 5、ID-Linkを活用した連携の中で困ったこと、迷ったこと、使い方が分からなかったことなどについてお聞かせください
- 6、その他、ご意見やご要望などあればお聞かせ願います

ご協力ありがとうございました。

## 第4回 医療・介護連携 IDリンク活用推進ワーキンググループ

日時：令和4年11月24日 18:00～ ZOOM 開催

内容：試験運用実施報告

○「道南メディカ活用連携」の試験運用ヒアリング結果について

- 1) 試験運用実施機関へのヒアリング結果
- 2) 協力機関へのヒアリング結果（グラフ）
- 3) 協力機関へのヒアリング結果（意見）

### 《試験運用協力機関一覧》

No.	実施機関	種別	協力機関
1	市立函館病院	病院	高橋病院
2		訪問看護	訪問看護STホーム
3		訪問看護	訪問看護STひなた
4		訪問看護	訪問看護STほくと
5	高橋病院	訪問看護	訪問看護白ゆり
6		訪問看護	訪問看護オハナ
7		訪問看護	訪問看護めぐみ
8		介護付き有料老人ホーム	あんじゅう七重浜
9	フレンズ	居宅介護支援事業所	ケアプランセンター愛の羽
10		居宅介護支援事業所	あんしん松風
11		居宅介護支援事業所	居宅いろは
12		デイケア	DC今整形外科
13		デイサービス	DSほたる

# 「道南メディカ活用連携」の試験運用ヒアリング結果について

## 1) 試験運用実施機関へのヒアリング結果

### ヒアリング内容

・長年活用されている機関であるからこそ感じるメリットやデメリット（違和感や連携に伴う不具合等）について試験運用を通じて見えてきたこと

### 市立函館病院～

#### <メリット>

- ・施設への情報提供をFAXしなくても良い。その手間が省けている
- ・誤送信等のリスクも回避できている
- ・訪看の指示書や印鑑が必要な書式については、スキャンが必要にはなるが、確実に業務量は軽減できている
- ・現在、関わっている事業所それぞれに情報提供しているが、それがID-Linkで一度に行うことができるようになるのであれば更に助かる。参加する介護事業所が増えるとありがたい。増えてほしいと期待している
- ・ケアマネには介護側の参加拡大の入り口のような役割を担ってほしい

#### <デメリット・課題>

・同意のあり方とか変わるのかな？何かしらルールはもたないと都合よく解釈する人が出てきた時に良いものが悪いものになってしまう。便利だからこそルールをしっかり決めた方が良いのではないか

介護関係者との同意の在り方を新たに設定するのか

### 高橋病院～

#### <メリット>

- ・処方と検査結果を見てくれるだけでも、公開施設の負担は軽減している。結果を知りたいという問い合わせが少なくなっているため、業務負担の軽減につながっている
- ・ID-Linkにも介護員が使えるようになればと思う。現在はNsとしか行っていないが、介護員にも見てほしい、やり取りすることが増えればと思っている

#### <広め方のアドバイス>

- ・これまでの経験で考えると、利用促進につながるには流れがあり、強制してもダメ。拒否感が強くなるだけ。思いが一緒だったら自然と繋がり慣れていく。最初の導入時は閲覧だけでもいいと思っている。まずは閲覧に慣れ、相手側から求めがあったり、必要となるタイミングに利用できる機能を説明していくと強制しなくても機能の技術を取得していくことに繋がる。現場の情報連携の際に日常使いしてもらえればと思う
- ・介護機関へのフォローは実際にやる機関同士でやっていけたらよいと思う
- ・たとえば多職種研修会などで川口先生に、ID-Linkを用いて多職種が情報共有し、症

例検討で利用している様子を発信してはどうか。サマリーやACPも絡めて、共感できるような、あたたかくなるような研修が良いと思う。難しく感じる研修でなく、ID-Linkを使うと、関わるスタッフが利用者や家族の思いなど、同じ情報を共有しながら繋がり、支えていくことができますよというような…

#### <デメリット・課題>

- ・課題はSECからの情報提供スライドと同じ（下記）
- ・運用にしる、システムのしる、資格に応じて制限する場合は、利用者の管理（登録、削除）が必要になる
- ・利用者の管理はどこでやるのか。事務局？医療・介護連携センター？施設に管理者を設け、任せる？
- ・一部ネットワークは利用者に講習の受講を求め、受講終了後にログインIDとパスワードを渡している

#### 訪看 ST フレンズ～

##### <メリット>

- ・ケアマネが月一回訪問した後の情報と訪看が得ている情報との違いはあった。自分たちは端的な情報の提供となるが、ケアマネはほんわり記入してくれる。文字だけでもそう感じるから、モニタリングに行ったときの雰囲気とかは、きっともっと温かいのではないかと感じる情報になっていた。視点の違いを感じ、ケアマネ特有のものかもしれない
- ・ケアマネの記録を文字化することでケアマネの本質を感じ取ることができた

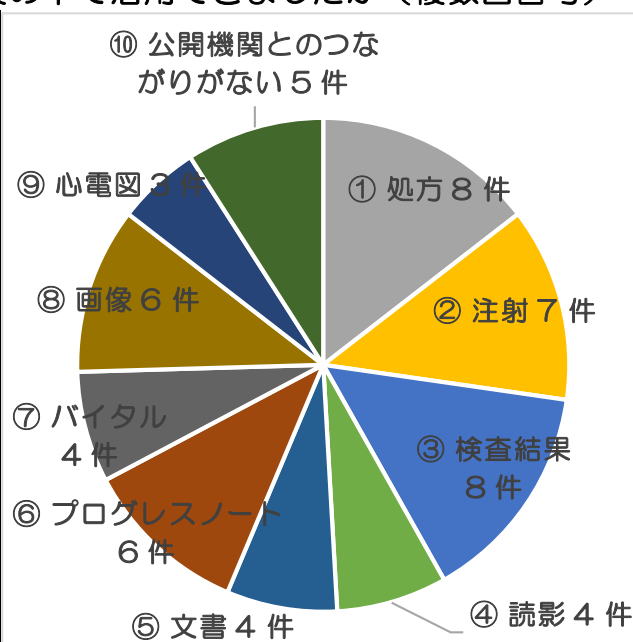
##### <デメリット・課題>

- ・お願いする居宅の選別など、どのような事例でやるかから迷った
- ・声かけても断られることがあり、担当者は乗り気でも法人がストップをかけるという場合があった。
- ・苦手意識の強さを感じた

## 2) 協力機関へのヒアリング結果 (グラフ)

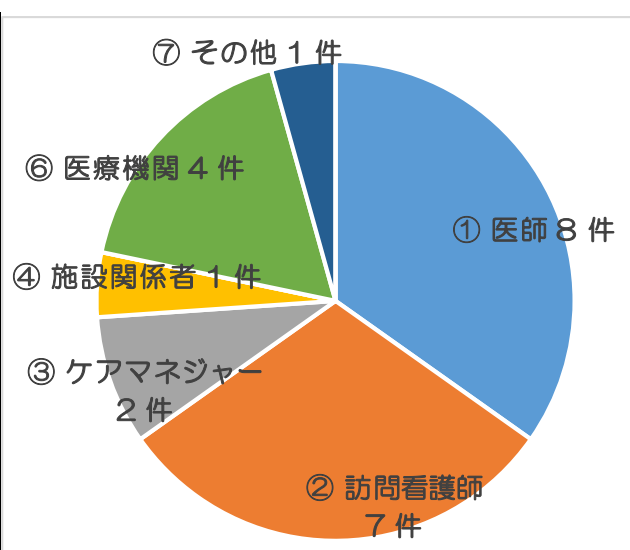
①公開されている情報の中、どの情報が支援の中で活用できましたか (複数回答可)

項目	回答件数	割合
① 処方	8 件	15%
② 注射	7 件	13%
③ 検査結果	8 件	15%
④ 読影	4 件	7%
⑤ 文書	4 件	7%
⑥ プログレスノート	6 件	11%
⑦ バイタル	4 件	7%
⑧ 画像	6 件	11%
⑨ 心電図	3 件	5%
⑩ 公開機関とのつながりがない	5 件	9%
合計	55 件	



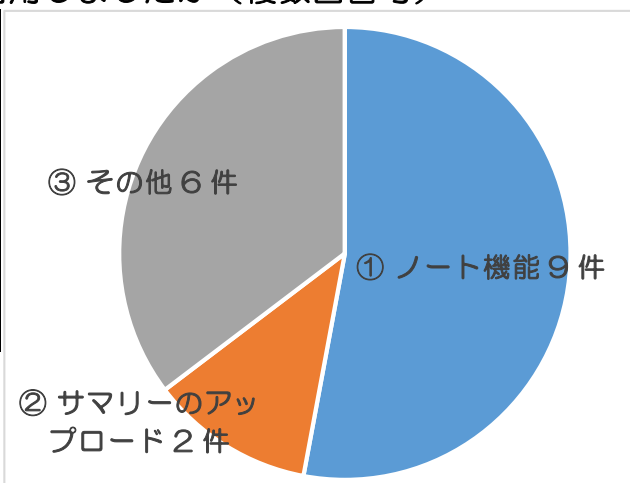
②ノート機能の活用 (サマリーの共有含む) にて、情報を受けた際、どの職種の情報を確認しましたか (複数回答可)

項目	回答件数	割合
① 医師	8 件	35%
② 訪問看護師	7 件	30%
③ ケアマネジャー	2 件	9%
④ 施設関係者	1 件	4%
⑤ 介護サービス事業所	0 件	0%
⑥ 医療機関	4 件	17%
⑦ その他	1 件	4%
⑧ 確認していない	0 件	0%
合計	23 件	



③自身が発信する情報についてどの機能を活用しましたか (複数回答可)

項目	回答件数	割合
① ノート機能	9 件	53%
② サマリーのアップロード	2 件	12%
③ その他	6 件	35%
④ 確認していない	0 件	0%
合計	17 件	



### 3) 協力機関へのヒアリング結果（意見）

- 協力機関には今回の試験運用の状況に加え、これまでの連携についても確認している

#### ■急性期病院（公開病院）との連携 市立函館病院にて実施

（①：入退院支援の場面にて、サマリーをID-Linkに掲載する双方向共有の検証）

- ・公開情報は有効活用されている（医療機関によって公開情報に違いがあるので、連携する機関の情報を把握する必要がある）
- ・サマリーなどの情報提供がスムーズ
- ・ノート機能は急性期での活用は難しい傾向がある（内容の確認作業と返信についての取決めが必要になる）

#### 意見集約

- ・入院中の経過を確認できるので、退院の目途をつけることができる⇒退院後のサービスのアセスメントができる
- ・情報収集する事で連携がスムーズにいく⇒時間（業務）の短縮

#### ■訪問診療との連携

高橋病院にて実施（②：①を含めたチーム間連携の検証）

- ・ノート機能での連携が有効
  - \*チーム内で取決めを相談しやすい
  - \*訪問診療をしている病院（クリニック）との連携は、特にノート機能が有効
- ・画像添付は、文章で表現しなくてもいいので時間短縮になる
- ・公開情報（採血、処方など）を確認し、すぐに支援に反映

#### 意見集約

- ・画像の添付は有効
- ・同じ内容を見て確認でき、連携がスムーズにいく
- ・在宅の情報がお互い（訪問診療や訪問看護）に共有できる
- ・病院との連絡がスムーズになった
- ・正確に情報が伝えられ、記録にも残る

#### ■在宅サービス間の連携

訪看 ST フレンズにて実施（②：①を含めたチーム間連携の検証）

- ・ノート機能での連携が有効
  - \*訪問で外にでている職種との連携が特に有効

#### 意見集約

- ・リアルタイムでみる事ができる
- ・複数で同時にみる事ができるので伝達が正確
- ・画像の添付は有効
- ・CMへの情報提供に有効

## ■その他の意見

- 介護関係者が医学的な面で分からないところがあっても、薬の内容などクリックするだけで情報を確認できるので便利に使えるのではないか
- FAX 等だとどうしても、事務所に帰らなければならないが、ID-Link だと自宅でも車の中でも伝達が可能
- 夜間帯の緊急訪問など報告の時間が気になるときは ID-Link が便利
- セキュリティもしっかりしているので特に心配なことはない
- ID-Link に入れた内容（自分たちの記録として）を印刷して、ID-Link を使っていない機関に FAX したりしている
- 各データが見えることにより、自分たちケアマネも勉強する必要があると思う。スキルアップにつながる

## ■課題

### 意見集約

- 使い方がわからない（使う頻度が少ないと、ますます使えない）  
⇒メリットを伝える必要がある。利用に慣れるまでサポートが必要
- 参加者登録が活用されていない。既読後のお知らせ機能が無いため、確認が必要  
⇒確認、返信等の連絡方法をお互いに擦り合わせる必要がある
- 使いたい機能の使い方がわからない
- ノート機能活用時、医療関係者への入力内容を考える必要がある  
⇒苦手意識に繋がり、活用を妨げる可能性があるのではないか
- 多職種が利用するといいい
- 手続き等が複雑